2024 年度 第 3 回　博士キャリアカフェ

「未来志向の過去思考　計画と評価の難しさ」

【開催日】2025 年 2 月 14 日（金）12：15～13：15 （オンライン開催）
【講師】 三上 真嗣 先生（長野県立大学グローバルマネジメント学部専任講師）博士：政策科学

今回は，2023 年 3 月に本学総合政策科学研究科で博士学位（政策科学）を取得された後，本学政策学部助教を経て，2024 年 4 月から長野県立大学グローバルマネジメント学部の専任講師として，研究と教育に取り組んでおられる三上真嗣先生にご講演を頂きました。

1.　自己紹介

皆様，こんにちは。本日は，「未来志向の過去思考　計画と評価の難しさ」という題名で，お話したいと思います。私の専門分野は，政治学の中の行政学というもので，特に計画や評価に関する研究を行っています。そのため，これに合わせながら，その難しさについてお話ができればと考えています。予め「オチ」を一言で言うと，「キャリアも研究もなかなか予測が難しい」ということになります。ただし，学部時代，大学院時代のことが，後々になって活きてくる場合もありますので，少し考えてみたいと思います。キャリアカフェということですので，私の研究領域に関する話題も交えながら，特に博士学位を取得する前後の実体験を中心にお話できればと思います。「研究とキャリアはどういう変遷を辿ったのか」，「それが予測可能だったのか」について，過去を振り返ってみます。

簡単に私の専門内容についてご説明しますと，「政策評価論」という分野になりますが，未来を考える場合には，「事前評価」と言います。これに対して「事後評価」は，過去を振り返るものになります。研究を例に考えると，科研費や研究計画書を出すための計画段階が，「事前評価」に近いものとなります。そして，論文を書いたり，事後報告を行ったりすることが，「事後評価」になります。最近の研究成果としては，博士論文に 80,000 字ほど加筆修正を行った『評価と行政管理の政策学―外務省と開発協力行政―』という単著が，2025 年 3 月に京都の晃洋書房から刊行されます。具体的には，外務省の行政学を扱ったもので，ODA（政府開発援助）評価に関する制度の運用と管理に関する研究になっています。政策学，評価学，管理学の 3 つの学問分野が重なるところ，例えば，政策学と評価学の間は「政策評価論」，政策学と管理学の間は「政策管理論」となります。しかし，「評価×管理」と「評価×政策」の部分については，これまで研究が十分になかったものですから，「評価を管理するための政策（評価ポリシー）」を見ながら，評価の管理を考えて，政策学の新しいアプローチを見ていくことがねらいになっています。そして，もう 1 つの研究成果として，大学院の博士後期課程在学中に支援を受けていた科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究プロジェクト（SPRING）」の成果を盛り込んだ共著本『科学技術政策のアカウンタビリティ』も，同じく晃洋書房から 3 月に刊行されます。私が担当したのは，「海外における科学技術政策―欧州宇宙機関の責任追及と行政管理―」という第 10 章になります。

2.　研究のジレンマ，困った話

色々な分野に取り組んでいるのですが，研究のジレンマというか，困った話もあります。研究には，「社会で求められる研究」，「学術界で求められる研究」というように，研究成果を積み上げていくために必要なものがあります。現在の業績主義と予算獲得が必要な時代には，こちらへの対応が求められる場合があります。「流行り」のテーマに関わる必要もあるという点で，これには研究戦略上，リスキーな部分もあります。他方で，他者から求められるわけではない地味な研究も重要です。なかでも，「面白くない研究」というのもあり，自分自身は大事だと思っているのだが，人にはなかなか理解されない，けれどもやはり重要だから研究するというものです。さらに「面白い研究」というのもあるのですが，これも趣味的かつ独善的で危ないものになる場合もあります。大事なのは，どれも無視できないので，これらの内と外のせめぎ合いの中で研究計画を立てたり，研究方針を決めたりする点です。そのうちに，自分でも考え付かなかった想定外の道に進むことになります。これがオリジナリテ

ィを生み出すのだとも言えますが，自分自身でも研究している最中は自分がどこにいるのか良く分からなくなる場合もあります。このように色々な事情に配慮しながら研究を進めていく中では，目標を段階的に設けることが重要です。まずは，現状でやれるものを組み合わせながら複数の中間目標を立てていく。それらの目標の成果を最終目標に繋げていくことが大事ではないかと考えています。目的と手段，政策学の基本でもあります。

3. Connecting The Dots.

本日のお話で大事な点は，私がどのようなキャリアパスを歩んできたかということになるのでしょうが，「たまたまうまくいっただけではないか」ということも往々にしてあります。「Connecting the dots.」は，Apple の創業者であるスティーブ・ジョブズが発した有名なフレーズである「Stay hungry, Stay Foolish.」の前段です。私はこの（有名ではない方の）言葉が好きなのですが，自分が打ってきた点と点は，後から繋がる或いは繋げていくという発想です。ここでは，実際に繋がったのかという検証ができればと思います。

私は，埼玉県にある普通の公立中学校に通っており，ごく普通の生活を送っていましたが，高校から東京の下町にある学校に進学しました。幼少期は，コンピュータや化学が大好きな少年で，理科系に進みたいと思っていました。ただ，高校生になってからは政治に関心を持つようになりました。そのような中で東日本大震災が発生し，帰宅難民となって，余震や放射能汚染への危機感の下で暮らす経験もしました。その結果，「政治を，政府を，国を何とかしなければ」という使命感に燃え，官僚を夢見るようになりました。しかし，大学受験に 3 回失敗し，自らの無能に直面しました。次第に，東京一極集中に対する疑念も生じました。このように色々な挫折を経験する中で，唯一手元に残ったキーワードが「政策」でした。ここから，政策学に関する可能性を感じるようになりました。これも初めから思っていたものではなく，こちらに偶然に流れていったというのが適切かもしれません。東京から離れようと決意して，京都に引き寄せられ，同志社大学に行くことにしたのですが，この時点では，全く研究者の道は想定しておりませんでした。しかし，学部に入って，後に指導教員となる山谷清志先生と出会いました。山谷先生は，外務省や防衛省の有識者としてもご活躍で，その実務と学術を繋ぐお姿を見てかっこいいなと思いました。このご縁が，また転機になりました。この時点で既に二浪していましたので，大学院への進学にあたっては，あまり悩みはありませんでした。新卒での就職は難しくなっていたため，これ以外に道がなかったというのが正直なところです。そうして政策学部の奨学金も頂くことになり，これで研究者としての新たな門出を迎えることができるかなと思ったのですが，この時期に家族が大病に罹って入院してしまい，学費の捻出が難しくなりました。そのため，大学院への進学を 1 年延期することになりました。当時は，もう人生が終わったと思いました。進学もなければ，就職もない中で，京都市役所から生活保護を勧めるお手紙が届いたのは，とても印象的でした。ただ，「捨てる神あれば拾う神あり」と言うように有り難いことが 2 つありまして，1 つ目は，研究室の兄弟子（故北川雄也先生）の紹介で，京都文教大学で公務員試験の指導をすることになり，生活を維持できるようになりました。また，2 つ目は，政策研究大学院大学の先生が同志社大学に教えに来られていたのですが，授業を受講させて頂いたおかげで，科目履修生として，首の皮一枚で学生の身分を継続することができました。そして，1 年遅れで大学院に進学したのですが，各種の国の支援制度には落ちてしまいました。その際に，政策学部の先生から松下幸之助記念志財団のお話をご紹介頂いたため，応募したところ採用されました。この奨学金では，国際的なテーマを研究する必要があったので，ここから国際行政に（少し）関わる研究にも手を広げることとなりました。この頃には新型コロナウィルス感染症も発生し，その対応に関する研究会が生まれたことで，共著プロジェクトに参加させて頂けました（『地域を支えるエッセンシャル・ワーク』ぎょうせい）。また，指導教員のおかげで，政策学の共著にも加わることができました（『政策と行政』，ミネルヴァ書房）。そして，ロシアがウクライナ侵攻を始めた頃には，日本行政学会でも外務省研究の企画セッションが立ち上がりました。ここに北海道大学の先生からお声がけ頂いたことで，研究の方向性が固まることになりました。さらに，お仕事に関しては，代替要員として神戸学院大学の非常勤講師（政治学）の募集が偶然にかかり，共著の業績に加え，公務員試験の指導経験が評価され，採用して頂くことになりました。このときの気持ちは，仕事に就けて少額ながらも納税ができるようになった喜びでした。さらに博士後期課程の最後の年になって，「次世代研究者挑戦的研究プロジェクト（SPRING）」の制度が始まりました。ただ，指導教員は，海外がお嫌いで，海外活動が義務付けられる SPRING への応募には難色を示されていました。しかし，周囲の大学院生が採用される状況を見て，お考えが変わってきました。ここにちょうど，欠員補充枠 1 名の公募が出ました。とはいえ，博士論文の骨格はできてしまっている段階でしたので，次の研究テーマの種を蒔くつもりで「ええい，ままよ」と飲み会の席で話

題になっていたオランダの行政責任論を応募書類に書いたところ，採用されました。採用されてしまった以上，計画は実施しなければならないわけです。そのため，博士論文の執筆と並行してオランダ語を一から勉強する必要に迫られました。同時期には，科学技術政策に関する科研費の分担者にも加わっていました。同時に複数のテーマを抱えてしまいどうしたものかと悩んでいたのですが，JAXA（宇宙航空研究開発機構）の研究者が，オランダの欧州宇宙機関を調査する人を偶然に探していました。こうして，偶然と偶然が重なったことで，SPRINGの制度を活用してオランダとベルギーの大学や研究所に訪問することになりました。さらに，ODAや宇宙，人権と広がる対象領域をどうつなげるか考えていたところ，今度は，岸田政権で，ODA，人権，宇宙が安全保障政策に組み込まれることになり，これまでの「点」と「点」が繋がる状況が生まれました。

学位を取得した後は，たまたま枠があった本学の政策学部の助教に採用され，学部裁量経費も取れたことから，研究の「種蒔き」は重要であるということで，SPRINGのメンバーに声をかけて研究会を立ち上げました。また，担当科目の関係で，DXや統計，機械学習も要求されたことから，本を買い込んで一から勉強に着手しました。せっかくなので，機械学習を交えて科研費に「政治学」で応募してみたところ，偶然にも採択されました。これは冒頭でお話したように，学術界で「流行」しているテーマです。それで，機械学習と混ぜた研究を進めようと考えておりましたら，先行研究にオランダ関連の物が出てきました。別方向から点が繋がったのです。再度，現地へ足を運んでみたところ，軍事部門に関する研究の蓄積がカギになっていたことが分かり，さらに研究分野が広がっていくことになりました。また，同時並行で「国際人権法」における実施やモニタリング，SDGs等に関する研究にも加えて頂いたのですが，これは安全保障やDXの分野とも関連があるものになってきました。こうやってお話をしていると，あまり未来志向ではなく，単に振り回されているように見えるかもしれませんが，実は，「点」が繋がっていたということになります。ただ，本学の政策学部の助教の任期は2年だったため，早く就職先を見つけないと厳しい状況になることを認識していました。そのため，JREC-INという研究者向けの公募サイトがあるのですが，ここに掲載された大学で，自分の関連分野に近いものに次々と応募することにしました。その結果．運良く長野県立大学に採用されました。ただ，県立大学ということで，自治体との研究も求められるようになり，信州，総務省，名古屋市とのプロジェクトに携わることになりました。ここで，DXや機械学習との新たな接点も生まれました。また，SPRINGの支援対象学生に義務付けられている海外活動の一環で，外国に行った経験があったものですから，長野県立大学の学生をアメリカのミズーリ大学に1カ月ほど引率して行くことになりました。今月の初めに現地へ行ってきたのですが，そこでお会いした研究者が，たまたま「人権指標」を専門とする方で，先ほど述べた「人権法」の研究の際に読んだ研究の関係者でした。これによって新たな国際的人脈もできました。さらに滞在期間中には，向こうの大学からアメリカの行政管理に関する研究者を紹介して下さることになったのですが，これが中国系の方でした。この研究者が中国でどういった議論をしているのかと調べてみると，蠟山政道（ろうやま・まさみち）という日本行政学の第一人者の研究を下地にしていることが明らかになりました。面白いことに，結果的に日本における議論をぐるっと一周させて日本人の私に紹介してきたことになります。アメリカでは，英語圏以外の全体像があまり見えておらず，この隙間が，新規の研究領域のチャンスになるのではないかとも思いました。

4.　計画の時点で研究はおよそ終了？

高校生や大学生の頃に想定したものは，大半がモノになりませんでした。例えば，「防衛関係の研究についてやりたい」と指導教員に相談したところ，当初は首を横に振られました。ただ，今は紆余曲折あって防衛省の研究に関わることができるようになりました。振り返ってみると，結果的に当初やりたかったものに繋がっているということかと思います。そういう意味では，本日は学部生の方も参加しておられますが，未来に向けてやりたいことを大きく思い描いてみても良いのではないでしょうか。また，科研費等の外部資金を得るためには研究計画を立てる必要があるのですが，この際によそから降ってくるものとか，自分の手元にある材料を組み合わせていくと，新しい気付きというものが生まれます。その意味では，計画を立てた時点で研究が定まることになります。これまでの振り返りを見てみると分かるように，複数領域に意識を向け続けていたものが，数年を掛けて繋がってくるというものが多いです。私の指導教員は，いわゆる「寝かせる」，「温める」ということも大事だとおっしゃるのですが，その重要性を自分でも実感しています。また，世の中は，やはり「ご縁」なのかなと思っています。人脈やコネも大事ということで，研究の人脈もいつのタイミングで繋がるかは分かりません。そのため，積極的に繋がりに行くことが大事です。過去を振り返り，意図的に意味付けをする中で，温めておいたものが繋が

るという具合かもしれません。

5.　ノイズの重要性

学部や大学院のアカデミックスキルの授業で紹介することが多いのですが，フェミニズムの研究で有名な上野千鶴子先生が，『情報生産者になる』（ちくま新書，2018）という本をお書きになっています。ここで重要性が語られているものなのですが，「新奇性」や「新規性」というのは，ノイズが混入することで新しく生まれます。もしかすると，未来志向で調書や計画書に書くような，研究が始まる時点では結果が見えていないもの（ある種の「嘘」やそれによる「ノイズ」）が，新たな研究を生み出すのではないかと考えています。また，これは指導教員からの受け売りですが，「面白いものには毒がある」ということがあります。普通とは真逆の話ですが，「面白くない研究」や好きではない研究テーマを予め選んでおいた方が，嫌になっても仕事として割り切れるかもしれません。嫌なものや面倒なものをやる人は少ないので，研究者としても生き残れるかもしれません。逆に好きなものについては，趣味的なものとして残しておいて，面白くない自分だけの強みと組み合わせることで研究の幅を広げていく方が，やりやすいのではないかと思います。その中で「社会で求められる研究」や「学術界で求められる研究」に対応させることができれば，なお良いと思います。

6.　最後に：未来志向の過去思考　計画と評価の難しさ

最後になりますが，学部生や大学院生の方々にお伝えしておきたいことを整理します。まず，「未来志向」については，悔いなく様々な種蒔きをしておいた方が良いのではないかということです。研究をやっている時点では，先が見えないため，その場しのぎであっても頑張るしかないです。いつか役に立つかもしれないし，役に立たたないかもしれません。次に，「過去思考」については，自分の人生や研究の道筋を振り返って考えると，蒔いてきた種を繋げられることが沢山あるということです。繋がったものは「ご縁」だと思って取り組んでみると，面白いのかなと思います。政策や行政の分野でも同様で，予算を立てたり計画を考えたりということをやります。やらないと何も始まりません。例えば，国の研究所の場合，研究の計画を綿密に立てたとしても，財務省からの回答では，当初予定予算の 70%くらいにまで減額される場合もあります（0 になることも当然多い）。これでは，未来志向で考えていたような計画は完全には実施できないことになりますが，それで諦めてはいられません。新しい状況に合わせて計画を修正し，その範囲内でできることをやるしかない。ひるがえって，これが次の計画でもあるのです。要するに，計画と評価は難しく奥深いということですが，色々な条件に対処しなければならない点で研究活動も少し似ています。未来を向きながらも，過去を振り返り，これまでの様々な営為が無駄ではなかったと「なるように」意味づけをする，そのような不断の努力が必要ということかと思います。

※ ご講演の後，事前に頂戴したご質問への回答も頂きましたが，内容は省略します。

【文責：高等研究教育院　加治木紳哉】

2024年度 第３回「博士キャリアカフェ」
２月14日(金)12:15～（オンライン開催）

未来志向の過去思考－計画と評価の難しさ－

本学では，キャリアパス支援の一環として，アカデミア，企業，官公庁等を問わず様々な分野の博士学位取得者の方から，ご自身の経験や現在の状況について伺う「博士キャリアカフェ」を定期的に開催しています。講師の先生と，ざっくばらんに意見交換ができる貴重な機会となりますので，奮ってご参加ください。なお，参加をご希望の方は，事前にお申し込みが必要です。

【講師】
三上 真嗣 先生（長野県立大学 グローバルマネジメント学部 専任講師）

博士：政策科学（2023年３月 同志社大学）

【プロフィール】
2023 年 3 月同志社大学総合政策科学研究科博士後期課程修了。同志社大学政策学部助教を経て，2024 年４月より現職。

【日時】
2025年２月14日(金)12:15～13:15(ご講演30分，懇談30分)
Zoomによるオンライン開催

【対象】
本学の学生及び教職員

【申し込み方法】
- 本ガイダンスはZoomによるオンライン開催となりますので，事前申し込み制とさせて頂いております。
- ２月13日(木)15:00までに，右のリンクもしくはQRコードからお申し込み下さい。参加用のURLをお送りいたします。

https://forms.office.com/r/M7hNXtViri

本件に関するお問合せ先：研究開発推進機構研究企画課
TEL:0774-65-8257
Mail: ji-knkak@mail.doshisha.ac.jp